

経営相談 Q&A

「2017年版 中小企業白書」のポイント①

Q

私は、製造業を営む中小企業の経営者です。最近、売上げが伸び悩んでおり、そのため売上拡大策や新しい事業への展開を考えています。また、自身が高齢になっていることもあり事業の承継も検討すべき時期にきています。他社の動きも気になるところで、中小企業庁が毎年発表する「中小企業白書」から中小企業の現状や注目すべきトピック等を把握したく、2017年版の白書のポイントについて教えてください。

A

2017年版の中小企業白書によりますと、中小企業の業況は緩やかな改善傾向にあります。新規開業の停滞、生産性の伸び悩みに加えて、経営者の高齢化や人材不足の深刻化といった構造的な課題が進行しています。

白書ではこうした状況の中、平成28年度の中小企業の動向についての分析に加え、中小企業のライフサイクルと生産性および中小企業の雇用環境と人手不足の現状について分析を行っています。また、この分析結果を踏まえたうえで中小企業のライフサイクルとそれを支える人材に着目し、起業・創業、事業の承継、新事業展開による成長および人材確保の取り組みについても分析しています。

本稿では今月から数回にわたり、2017年度版中小企業白書のポイントを紹介します。

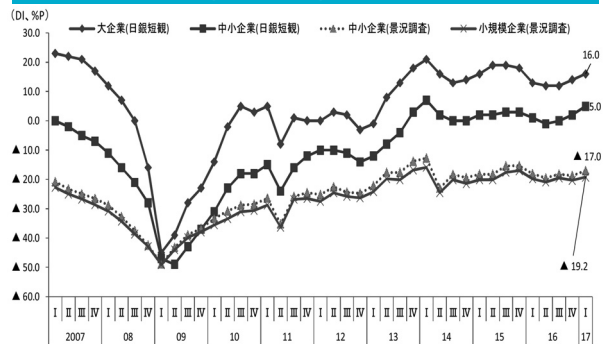
I. 平成28年度の中小企業の動向

1. 中小企業の動向

<ポイント>

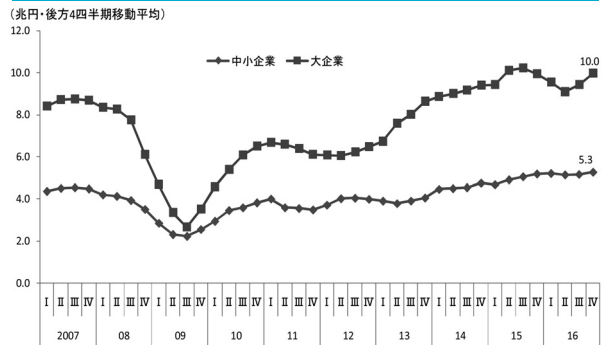
- 業況（図表1）、資金繰りは改善し、経常利益（図表2）は過去最高、倒産件数も低水準。
- 改善の度合いは規模、業種、地域によって異なる。震災や天候などの外的要因の影響もみられる。
- 設備投資（図表3）や売上高は伸び悩み、海外展開も大企業と比べ進んでいない。
- 取引環境には依然として大企業と差がある。

図表1：企業規模別業況判断DIの推移

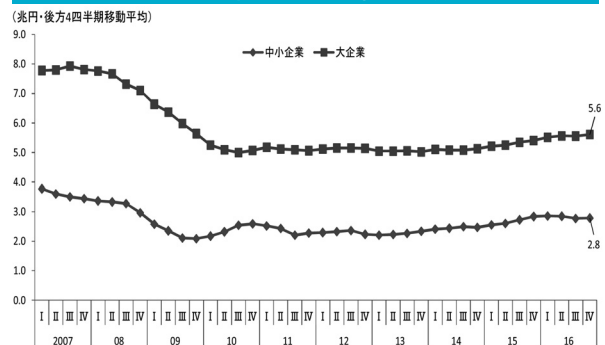


資料：中小企業庁「2017年版 中小企業白書」（以下、同じ）

図表2：企業規模別経常利益の推移



図表3：企業規模別設備投資の推移

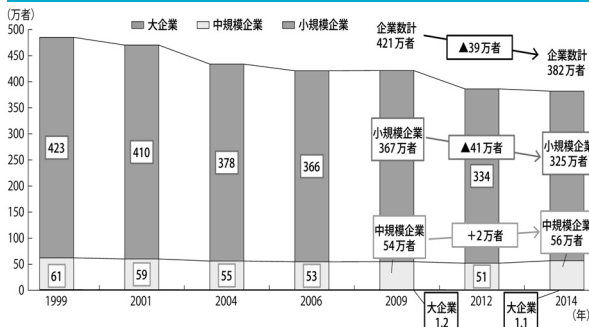


2. 中小企業のライフサイクルと生産性

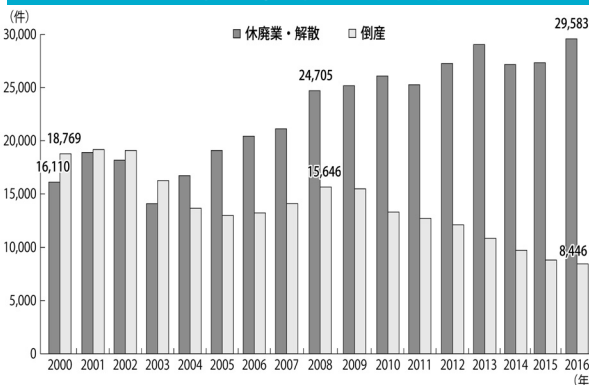
<ポイント>

- 企業数は減少傾向にあり、2009年から2014年にかけて小規模企業が減少、中規模企業は増加（図表4）。
- 倒産件数は3年連続で1万件を下回るが、休業業・解散件数は増加傾向にある（図表5）。
- 従業者数は2009年から2014年にかけて中規模企業では201万人増加、小規模企業では155万人の減少（図表6）。

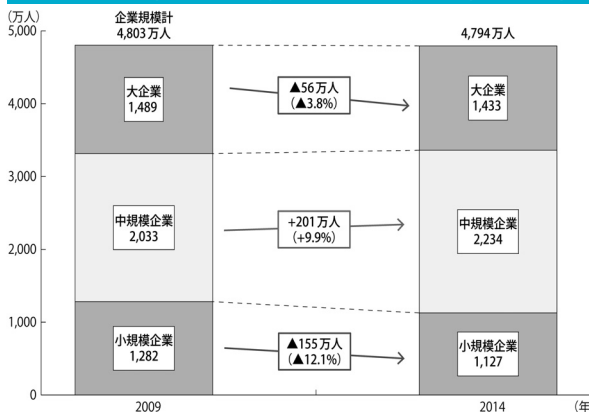
図表4：企業規模別企業数の推移



図表5：休業業・解散件数、倒産件数の推移



図表6：企業規模別従業者数の変化（2009年～2014年）

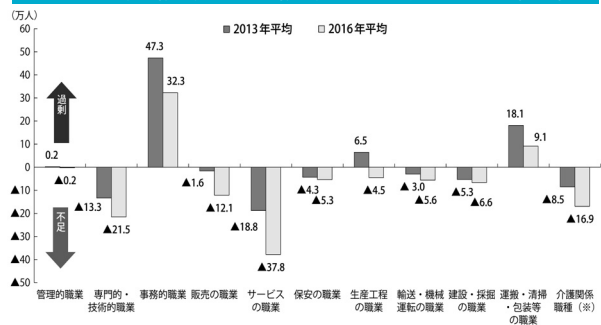


3. 中小企業の雇用環境と人手不足の現状

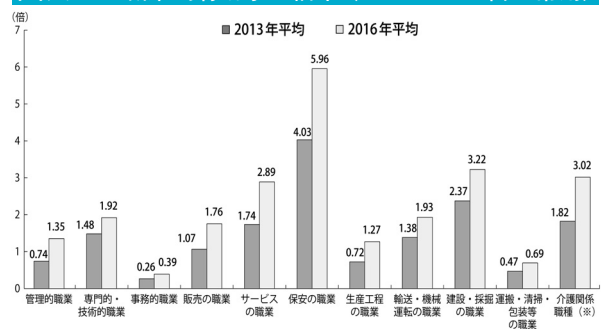
<ポイント>

- 2013年、2016年とも事務的職業では有効求職者数が有効求人数を大きく上回る。一方、サービスの職業、専門的・技術的職業では大きく下回る。企業と求職者でミスマッチが生じている（図表7）。
- 2013年から2016年にかけての有効求人倍率はすべての職種で上昇しているが、事務的職業、運搬・清掃・包装等の業種では1倍を下回っている（図表8）。
- 仕事内容に魅力があり、柔軟な働き方ができる中小企業は、就職先として選ばれている（図表9）。

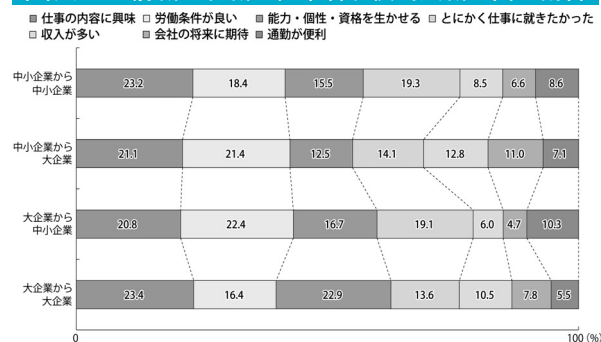
図表7：職業別有効求職者数と有効求人数の差（パートタイム含む常用）



図表8：職業別有効求人倍率（パートタイム含む常用）



図表9：前職・現職の従業者規模別入職理由の割合



【2018年1月号に続く】（丸尾尚史）